

## 再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道334号 <small>まこい</small> 真鯉道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自： <small>ほつかいどうしやり しやりちよう</small> 北海道斜里郡斜里町字オシンコシン 至： <small>ほつかいどうしやり しやりちよう みねはま</small> 北海道斜里郡斜里町字峰浜		延長 14.4 km
事業概要 一般国道334号は、羅臼町を起点とし、美幌町に至る延長約120kmの幹線道路である。 このうち真鯉道路は、土砂崩壊を要因とする通行規制区間、危険箇所の解消を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした、斜里町字オシンコシンから字峰浜に至る延長14.4kmの事業である。		
S63年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	S63年度用地着手
S63年度工事着手		
全体事業費	約228億円	事業進捗率
		78%
		供用済延長
13.2 km		
地域の防災面の課題 ・当該道路の防災面の課題は、ウトロ住民（人口：約1,200人）の日常行動における重要な路線であるが、通行止めになると、通常ルートと比較して距離で約89km、時間で約93分増加する等、ウトロ住民や観光客などの道路利用者に大きな負担となる。 ・知床峠の冬期通行止め期間に当該道路が通行止めになると、ウトロが孤立するとともに、知床観光客も足止めされることとなり、安定した周遊観光が出来ないなど観光振興の支障となっている。 ・防災上の対策必要箇所が10箇所（落石・崩壊：7箇所、岩盤崩壊：3箇所）、異常気象時の通行規制区間が1区間（連続雨量140mm）存在し、早急な対策が必要。 （北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10）） ・オンネベツ川付近の法面には、想定災害規模が高さ40mからの落石エネルギー600～700KJの危険箇所があり、早急な対策が必要。（北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10））		
課題を踏まえた対策・事業内容 ・防災上の対策必要箇所に対して、災害要因の解消、現道交通への影響、景観への影響、事業期間及び経済性を防災上の視点から技術的に比較考慮した結果、対策箇所の想定災害規模に合わせて土堤工（ソイルセメント）等による現道対策の整備が妥当。 （北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10）） ・法面工において、近接する法面の土砂崩落の発生等や、現道交通への影響、景観への影響を防災上の観点から技術的に比較考慮した結果、落石発生源を除去する切土と抑止するグラウンドアンカー等に見直すことは妥当。（北海道開発局道路防災技術専門委員会（H26.8））		
事業の効果等 ○走行時間短縮等（100億円（残事業＝8.1億円））  ○災害による被害の回避等（97億円（残事業＝52億円）） ・岩盤崩壊等による通行止め時の迂回の解消 ・救急搬送の効率化及び遅延の回避 ・余裕時間の短縮による効果  ○地域住民の不安感の解消（263億円（残事業＝263億円）） ・走行時の安心の確保・不安の解消		費用（残事業）/（事業全体）  38/297億円  事業費：38/292億円 維持管理費：0.51/5.1億円
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 網走市など3市14町1村の首長等で構成される「オホーツク圏活性化期成会」等より早期整備の要望を受けている。		

